

小松市重点目標

未来の創り手となるために必要な資質・能力を確実に育成する学校

授業の質的改革 → 資質・能力を確実に身に付ける児童生徒の育成

- ①児童生徒が 主体的・対話的に学習したくなる授業
- ②児童生徒が 自己の思考を深め、自己表現したくなる授業（思考力・記述力・発表力）
- ③児童生徒が 自己の学習をふりかえり、学びを実感できる授業

組織的な体制・環境づくり → 児童生徒に資質・能力を身に付けさせる教員の育成

- ④教職員が 目標や課題を共有し自己の役割に責任を持ち、課題の解決に取り組む
- ⑤教職員が 授業力を高める。切磋琢磨し学校研究に取り組む
- ⑥教職員が 児童生徒が主体的に活動できるように環境を整える

平成31年度 学校評価重点計画

小松市立木場小学校
学校長 山本 秀徳

目指す児童生徒像

- よく考え工夫する子（思索） 【主体性 学力の定着 思考力表現力】
- たくましい心と体の子（剛健） 【言葉づかい あいさつ】
- 思いやりの心で協力し合う（誠実） 【集団作り】

目標

自己有用感を高め、相手を意識した言動ができる児童の育成（小松市の重点目標①②⑥と関連）

（1）学校の現状と課題

- ・素直で真面目に取り組む児童が多いが、自己有用感が低く自ら進んで活動する場面が少ない。
- ・授業・児童会活動・学校行事などの活動に、児童の主体的な活動の視点から、内容や教育課程の改善を図る必要がある。

（2）目指す成果

- ・授業や学校行事等に、意欲を持って主体的に取り組む。
- ・明るく礼儀正しい態度で、心身ともに健康な学校生活をおくる。

（3）目標達成のための具体的な手立て

- ・授業や行事等の教育活動全般において、相手・周囲を意識することを大切にする。
- ・全教育活動において、児童の主体性を育むような取り組みを実践する。
- ・縦割り活動や異学年交流等を実践し、互いに認め合うことを通して、自己有用感を高める。